

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。  
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。  
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。  
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

1 (評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 各2点 a ≡ ∪ b ≡ ∩ c ≡ ∩ d ≡ □

問二 4点 ∪

問三 4点 ∩

問四 4点 3

問五

(1) 7点

(模範解答例)

A 3点

「接点の少ないかれら」に対し、不在のものをしめす「文」を手がかりに

B 4点

想像しても、直接的現実から遠くへと離れてゆくしかないから。

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 想像が「文」を手がかりにしたものであること 3点

△「文」を手がかりに想像するという指摘が欠落している場合は2点減

B 想像は直接的現実から離れていくこと(想像は人を直接的現実から遠ざけること) 4点

△「だれを遠ざけるのか」が曖昧な場合は1点減

(2) 7点

(模範解答例)

A 3点

「接点の少ないかれら」に対し、想像力を鍛えて、不在のものを積極的に呼び起こし、

B 4点

互いの場所をむすびつけていく運動は可能だから。

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 想像力を鍛えて、不在のものを積極的に呼び起こすこと 3点

△「想像力を鍛え、積極的に呼び起こす」という要素が不足している場合は2点減

B 自分のいる場所とかれらのいる遠い場所を(無規則に)むすびつけていくこと 4点

問六 10点

(模範解答例)

A ○5点

ある人との出会いは、その人のいる場所と自分のいる場所との接続可能性の標識として記憶に刻まれ、

B ○5点

世界の地理的ひろがりと人間の生き方の途方もない多様性をさししめすという意味をもっている。

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A これらの印象は、かれらと自分のいる場所の(かれらのいる「どこか」と「ここ」との)接続可能性の標識として記憶に刻まれている 5点

△接続可能性の標識という指摘が欠落している場合は2点減

B これらは世界の地理的ひろがり、人間の生き方の途方もない多様性をしめしていた 5点

△「空間的な広がり」だけでは不十分(1点減)

問七 6点 口

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 差異
- 2 浸
- 3 宣伝
- 4 顧慮

※解答通り

問二 各4点 (計8点)

- 一 激しい流れ・勢いのよい流れ
- 二 悔ること・軽んじること

問五 4点

愛読

※解答通り

問七 各4点 (計8点)

ロ・ホ

※解答通り (順不同)

A ○2点

私たちの身体が生きていくことについて、

B ○2点

誰しもが感じることのできる。

C ○2点

行動の中心として他に働きかけるといふことと、

D ○2点

自然の中にただ存在するということの、二つのあり方。

(80字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「私たちの身体が生きていくことについて」(2点)

※「二重性」の前提条件として「身体が生きていくことに関わる」ものであることの指摘。

○「私たちが生きる中で感じる」も可。

B 「誰しもが感じる」ことのできる」(2点)

※「あの」の意味の説明。

C 「行動の中心として他に働きかけるといふこと」(2点)

※「二重性」の一方の説明。

△「行動の中心として〈働く〉こと」は、「働く」の説明が不十分な、単純な本文からの抜き出しの形であるので▲1点減点で△1点。

D 「自然の中にただ存在するといふこと」(2点)

※「二重性」のもう一方の説明。

△「自然のなかに、あるいは宇宙のなかに感覚を負って〈在る〉こと」は、「在る」の説明が不十分な、単純な本文からの抜き出しの形であるので▲1点減点で△1点。

\*「二重性」(解答例の「二つのあり方」にあたる部分)という表現の言い換えは今回は加点・減点の対象としな  
い。

問四 12点 (模範解答例)

A ○2点

文字が大量の知識を提示することを可能にした結果、

B ○2点

その量の多さゆえに、

C ○2点

努力によって知識を得るという学びの本来のあり方を、

D ○2点

単なる情報の技術的な処理に変えてしまったということ。

(85字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「文字が大量の知識を提示することを可能にした結果」(2点)

※IT化で文字による情報が増加したことの説明。

B 「その量の多さゆえに」(2点)

※Aの観点(増加した量の多さ)のために、C・Dが生じるということにつながる因果関係の指摘。

C 「努力によって知識を得るという学びの本来のあり方を」(2点)

※「災厄」が生じる前の状態(元のあり方)の説明。

○「学びの努力」が説明されていれば可。

D 「単なる情報の技術的な処理に変えてしまった」と「と」(2点)

※「災厄」の説明。

○「情報に関する技術上の処理」が説明されていれば可。

(別解)

A ○4点

語られる行為、聞かれる行為を離れた記号として固定化された文字が

B ○4点

運ぶ偽の「知識」により、

C ○4点

魂を失い、働きのある智慧を持たず、危険な自負だけを抱え込んだ人間が生み出されること。

(85字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「語られる行為、聞かれる行為を離れた記号として固定化された文字が」(4点)

○「言葉が個人の振る舞い(語られる・聞かれるなど)を離れた符牒として固定される」と説明されていれば可。

B 「運ぶ偽の『知識』により」(4点)

※Aの観点(文字の固定化)のために、Cが生じるということにつながる因果関係の指摘。

C 「魂を失い、働きのある智慧を持たず、危険な自負だけを抱え込んだ人間が生み出されること」(4点)

※「災厄」の説明。

○「働きのある智慧を持たない、危険な自負を抱え込んだ人間が生み出される」が説明されていれば可。

A ○2点

一時的で、限定された事柄に有用な言葉とは異なる、

B ○2点

人間の精神の中にあつて、

C ○2点

その人間の行動の根幹を支える倫理観を表した言葉。

(60字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「一時的で、限定された事柄に有用な言葉とは異なる」(2点)

※第12段落の「話される言葉」の説明を借りて、「書かれる言葉」(文字言葉)の一面を説明。

△「一時的で、限定された事柄に用いる言葉とは異なる」は、「有用性」に触れていないので ▲1点減点で

△1点。

△「限定された事柄に有用な言葉とは異なる」は、「一時的」であることに触れていないので ▲1点減点で

△1点。

B 「人間の精神の中にあつて」(2点)

※Aと同じ考えで、「書かれる言葉」のもう一方の面を説明。ここは「魂に植え付けられる」の言い換え。

△「魂の潜在的状态から現れる」は、本文の言い換えが不十分であるとして ▲1点減点で △1点。

C 「その人間の行動の根幹を支える倫理観を表した言葉」(2点)

※Aと同じ考えで、「書かれる言葉」のもう一方の面を説明。

○「その人間の行動の根幹を支える道徳観を表した言葉」も可。

△「正しい、美しい、善いものについての教えの方向にある言葉」は、『パイドロス』の引用をほぼそのまま

ま用いているので ▲1点減点で △1点。

△「行動の必要から自由になった言葉」は、Aとほぼ同質のことを抽象化したものであるので ▲1点減点で

△1点。



第1回 難関大記述模試 採点基準 (古文)

- 問一 ㉑ げす ㉒ たてじとみ ㉓ けさ  
㉔ みかど  
(各1点×4)

↓解答通りでなくては×。

問二 (4点×3)

問二・A・模範解答例

幼い娘

a (1点)

で

b (2点)

特に可愛がっていた

c (1点)

子

b (4点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント3箇所。

a 「幼い」…1点。「幼い・あどけない」の意。「かよわい」はダメ。

b 「くで」…2点。同格用法。「くで」と訳し、「ける」の後に「子」もしくは「娘」のような体言が補足してあることが正解の条件。

c 「特に可愛がっていた」…1点。「特に可愛がる」「特別に大切にする」のような解答。1点完答とする。「非常にかわいげのある」はダメ。

問二・D・模範解答例  
とだろう。(4点)

a (2点)

b (2点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント2箇所。

a 「もし実の父に逢うことができるのなら」…2点。仮定+「父に逢う」の内容。「もしそうならば」だと具体的な内容がないので1点。

b 「どんなにすばらしいだろう」…2点。「どんなによいだろう」可。「どんなにく・さぞく」などの抜けている「すばらしいだろう・よいだろう」も可。「すばらしい」「よい」のような推量の抜けているものはダメ。基本的に完答。

問二・E・模範解答例  
a (1点) b (1点) c (1点) d (1点)  
点) どうして父上のおっしゃることに背き申し上げましょうか。(4

【各部の採点】4点満点。加ポイント4箇所。

a 「どうして〜しましょうか。」…1点。反語の解釈。「どうして〜できようか」も可。

b 「父上のおっしゃることに」…1点。「父(の言葉)に」「あなた様(のおっしゃること)に」などの言葉の補足。

c 「背き」…1点。「背く」「反対する」「断る」の意。

d 「申し上げる」…1点。「〜申し上げる」という謙譲の補助動詞。

問三 1 うしろやすかる 2 おぼつかなく

3 くちをしく 4 いやしから (各2点×4)

↓解答通りでなくは×。

問四 ①||ハ ②||ニ ③||ニ ④||ハ ⑤||イ (各2点×5)

問五 おとなになくもせません (3点・完答)

↓解答通りでなくは×。

問六 ぬ・ん(む)・つ (3点)

↓順不同。「ん」の箇所は「む」でも可。

問七 (8点)

問七・模範解答例  
に出会っても

つまらない下仕えなどしてほしくはないし、たとえすばらしい幸福	a (3点)
	b (1点)

無常の世の中で心穏やかにいることはできないから。(※六〇字) (8点)

	c (3点)	d (1点)
--	--------	--------

【各部の採点】 8点満点。加ポイント4箇所。

※四〇字に満たないものは、4点のマイナス。

a 「つまらない下仕えなどしてほしくはない」…3点。「下女として仕えることはいけない」という内容。「宮仕え」自体を否定しているわけではないことに注意。

b 「たとえすばらしい幸福に出会っても」…1点 直接大事な箇所ではないが、要約が基本の出題なので、この内容のないものは1点の減点。

c 無常の世の中で心穏やかにいることはできない」…3点。「この世は無常なのでずっと心穏やかに生き続けることはできない」という内容。

c 「〜から」…1点。「〜ので」「〜ため」などの原因理由の文末表現。ここだけでは零点。

問八 【著者名】 鴨長明 【他の作品】 方丈記 (無名抄)

(各1点×2)

↓【他の作品】の箇所は「方丈記」でも「無名抄」のどちらでも可。漢字の間違いはダメ。

2019年度 第一回 難関大記述模試

四 (漢文) 採点基準 (合計250点)

問一 【解答通り】各2点 2×4=8点

模範解答

a || お (ける) や ( ) b || ゆえん (の) ( ) c || い (ふ) (ふ) d || や (ま) (ま)

採点基準 ・ b 「ゆゑん」は×【現代仮名遣いで】。

問二 3点

模範解答

孔子 (孔丘)

採点基準 ・ 別解 「仲尼」も可。

問三 【解答通り】5点

解答

人 不レ 可ニ 以 無レ 恥

採点基準 ・ 部分点なし。

問四 4点

模範解答

清廉潔白・廉恥功名・清廉恪勤

採点基準

・ 「廉」の漢字の誤りに注意。誤字は1点減点。  
・ 「潔」は「潔」も可。

問五 8点

模範解答

||

礼に反し、義を損なうようになる、

a 1点

b 1点

c 2点

d 1点

e 2点

f 1点

その大本は すべて 恥がないことから生まれる のである。

採点基準

- a・「礼」は「社会習慣」なども可。
- ・「反し」は「違い」「逆らう」「守らず」など可。
- b・「義」は「正義」「正しいこと」も可。
- ・「損なう」は「破る」「無視する」「反する」「傷つける」など可。
- c・「その」はなくとも可。
  - ・「大本」は「大元」「根源」「源」「起り」「起源」「始め」「原因」など可。
- d・「皆」「みな」のまま0点。
- e・「恥」は「廉恥心」も可。
- f・「である」は「だ」も可。

問六 【解答通り】 5点

解答 国

問七 【解答通り】 4点

解答 二

問八 (一) 5点 (二) 8点 合計13点

(一)

模範解答

||

未だ 嘗て 独醒の人 無くんばあらざるなり。

採点基準

- ・漢字とすべき箇所をひらがにしている、またその逆は↓一箇所につき減点1点。
- ・「嘗て」の誤字に注意。「尚」+「旨」。
- ・「未だ嘗てくざる(ず)」ができていたら、2点。
- ・「独醒の人」に「は」「が」をつけた場合は、減点1点。
- ・「を」「に」など文構造が主体でなくなる場合は、減点2点。

(二)

模範解答

||

多くの人が 恥を捨てている 世の中でも

a 1点

b 2点

c 1点

d 2点

e 2点

一人でも恥を知る人は 必ずいる ということ。

採点基準

- ・aとcを合わせて「世の中の人」も可。
- ただし、bとcが不可の場合はaの加点はない。
- ・b「捨てる」は「顧みない」なども可。
- ・c「時でも」も可。
- ・d「廉恥心を持つ人」なども可。
- ・e「今までにいないわけでもない」も可。
- 「今までに」はなくとも可。
- ・結びの語句に「〜ということ。」はなくとも可とする。